

5 土屋における神社の祭礼

(1) お祭り

土屋地区を寒い冬が通り過ぎてゆき、里山に若葉の色が広がってくる頃、苗代の準備が始まり、いよいよ梅雨期の農繁期を迎えることになります。また、夏には日の出から日の沈むまで炎天下で働き、やがて里山の素晴らしい紅葉の秋には、収穫作業をします。そして、落葉した雑木林を見ながら、その年の暮れを迎えることになるのです。

この一年を周期とする生活のなかに、神社の「祭り」という行事が組み込まれ、人々の心をひとつにする目には見えない「一本の太い糸」を張った「団結」というものが存在します。

祭りは過去の反省から抜け出せず、暗く沈みがちな人の心を、未来を望む明るくはつらつとした気持ちに切り替える行事であり、人間が楽しい気持ちで生活を送るうえで、欠くことのできないものです。したがって、この祭りの効果は、ひとりひとりの力がのびのび発揮され、集団の和と相まって、何かを生み出す力を作り出し、それに伴って個人個人の心の中に大きな感激を呼び起こすことであります。土屋の人々は、これまで以上に強い団結と協調の精神を認識することができるのです。

ここ土屋は、昔から引き継がれた純農村地帯で、五穀豊穡を祈願する祭礼を、主な神社（特定一族および小自治区を氏子とする神社は、別に説明）で、春秋に執り行われています。

表に示したように、上惣領の愛宕神社、惣領分の八坂神社、早田の造化神社は4月に、小熊・遠藤原・庶子分・寺分・人増の熊野神社は9月に、それぞれ例大祭が挙行されます。

愛宕神社・八坂神社・造化神社とも本来はその地区の氏神様として祀ってありました。明治45年（1912）に時の国家施策によって熊野神社に合祀され、昭和時代に入り、昭和20年代（1945）以降再び本来の姿として、現在の地に分祀されました。現在は、土屋地区内で熊野神社に合祀されているものは、寺分の八坂神社、下庶子分の建速神社、中庶子分の第六天社（造化神社）、上庶子分の十二社権現です。

熊野神社は鎌倉時代に土屋宗遠が紀州の熊野権現を勧請して造営されたもので、当時から近年（昭和のはじめころ）まで、流鏝馬（ヤブサメ）と競馬が執り行われていました。

なお、土屋における神社の数は、一名（イチミョウ）の神社を含めると、他の地区と比べかなり多く存在しており、詳細は〔2. 土屋の地理 （2）歴史地図
カ 神社・寺院とその由来 土屋の神社・寺院一覧表〕を参照されたい。

(2) 主な祭礼の役割

神社の祭礼にあたり、次のような主な役割があります。ただし、各神社によって多少の相違はあります。

- ・ 宮世話人 神社の運営・維持管理・予算等の総括者
- ・ 羽 織 神輿渡御の指揮権者
- ・ はっぴ連 神輿をかつぐ者・神輿連・神輿保存会
- ・ 輿 番 神輿をかつぐ者・神輿連・神輿保存会
- ・ 太 鼓 連 太鼓をたたく者・太鼓連

神社	氏子（地区名）	例大祭時期	太 鼓	山車	神輿	備考
愛宕	上惣領	4 / 2 4 前後の日曜日	大 1 ・ 小 2	1	大人 1 基	
八坂	惣領分	4 / 1 2 前後の日曜日	大 2 ・ 小 4	1	大人 1 基	
造化	早田	4 月最初の日曜日	大 1 ・ 小 3	1	大人 1 基	
熊野	小 熊 寺 分 遠藤原 人 増 庶子分	9 月最終の日曜日	大 2 ・ 小 6 大 2 ・ 小 5 大 2 ・ 小 2 大 1 ・ 小 3 大 2 ・ 小 4	5	大人 1 基 子供 6 基	

（注）1 カラ：大太鼓（オオド）1つ、小太鼓（コバチ・シメダイコ）2つの組合せ

（3）祭礼の日まで

祭礼日までは、各役割とも分担を決めて準備をします。宮世話人は、祭礼の一切の執行に気を配り、神主・神輿連・太鼓連・氏子等の関係者と打ち合わせをします。太鼓連は一ヶ月前から、まつりばやしの練習をしてその日に備えます。練習は太鼓の後継者を育成するために、子供たちを中心にベテランの指導者が教えています。

（4）宵 宮（ヨミヤ）

祭礼の前の日を「ヨミヤ」といい、いよいよ明日は「おまつり」だ、ということで、宮世話人・氏子が神社に集まり、祭礼の諸準備（神社の清掃・幟立て・御輿の飾りつけ）を行います。各地区では行在所の準備（行在所・テント・山車作り）等を行います。

そして祭り太鼓を打ち鳴らし、祝杯を上げて皆で楽しめます。また、他の地区の太鼓連を招待して共に祝い、太鼓の腕の競い合いもし、その地区内をおそくまで囃しながら巡回をします。

(5) 祭礼当日

神官による大祭神事が神殿で執り行われます。その後、神官により御霊（みたま）を神輿に移し、祝詞（のりと）・御祓（おはらい）をしたのち、各地区毎（神社により異なりますが、熊野神社の場合は小自治区）の行在所へ向けて、神輿・太鼓による渡御が行われます。太鼓が先に立ち神輿が行在所に近づいていることを氏子の皆に知らせます。この時神輿には、羽織・宮世話人・交通安全協会の方等がついていきます。

行在所に到着すると、祝詞・御祓をしたり、祝い餅をまいたりしてお祝をし、かつぎての者たちには、おにしめ（ニシメ）・酒・おにぎり等が差し出されます。

夕方、地区内の渡御がおわり、神輿が神社に近づくころ、祭りは「絶好調」になります。暗い神社の境内に神輿の提灯のあかりが映え、太鼓も一段とその音色を増し、まつりのクライマックスを迎えます。そして、いよいよ「宮付け」をして御霊を本殿に安置してまつりは終わります。

また、昭和10年（1935）代までは神事の際に笛・太鼓・箏・篳篥（ひちりき）・鉦（しょう）等の楽器で雅楽が演奏されました。

(6) 余興

祭礼の日境内には、金魚屋・おもちゃ屋・ラムネ屋等の露店が立ち並び、まつりに一層の賑わいを添え、その気分に侵ります。また、昔は「神楽殿」で「おかぐら」を演じたり、田舎芝居をしたりで楽しみましたが、昭和30年（1955）代からはその姿が消えました。現代では、カラオケなどをしているところもあります。

(7) まつりばやし

ア はじめに

まつりばやしは旋律に重きを置いていない、古い日本独特のリズム音楽です。そして発展がなかったため、かえってその原形をとどめ今日まで伝承されたものと思われます。西洋音楽は二拍子、三拍子が基本ですが日本民謡は二拍子であって、三拍子のものではありません。

まつりばやしは二拍子でも三拍子でもなく、その複合するものであって雅楽（ガク）の夜多羅（ヤタラ）拍子と同じです。

イ まつりばやしの起源

起源は、京都の祇園囃子の東下説や伎楽（ギガク・仏寺の供養音楽）から発したという説がありますが、この点は解明が不可能と思われます。

関東地方のまつりばやしの発生時期は、鎌倉時代からであろうと推察されます。とくに相模川以西いわゆる西相模一帯のまつりばやしは、農耕作業という生活のなかにとけこんだ「はやし」や「調子」が見られます。

屋台（曲名ではない）とまつりばやしは不可分であって、屋台の上で鳴物を使って「囃す（ハヤス）」のが「まつりばやし」です。

屋台の上でない演奏を特に「居囃子（イバヤシ）」と呼んでいます。

ウ 土屋のまつりばやし

土屋のまつりばやしは、昭和10年（1935）代まで笛と鉦が入った太鼓のお囃子でしたが、戦後の混乱で笛や鉦が消失し人材もなく、とうとう太鼓だけになってしまいました。

土屋のまつりばやしについては、次の項で説明しますが、各地区の太鼓連によって、そのはやしの内容に多少の違いをみることができます。

「まつりばやし」は、神輿が社（やしろ）を出発し、村内の行在所を巡行して社にもどる、いわゆる神輿の「宮出し・宮入り」の神事になって、大太鼓1・締太鼓（小太鼓）2・笛1・鉦1の五人構成を最小基準として演奏します。

はやしの種類は、七つあります。神輿が巡行する時に演奏する「屋台」（ヤタイ）・「宮昇殿」（ミヤショウデン）・「昇殿・字昇殿」（ジショウデン）・「神田丸」（カンダマロ）、また、神輿が宮入りして神霊を社にお納めしたあとに、まつりに参加したものがほっと一安心して、余興として演奏する、「唐楽鎌倉」（トウガクカマクラ）・「仕丁舞」（シチョウメ）・「印場」（ニンバ）があります。

また、その他に「刻」（キザミ）・「ぶっこみ」などがあります。

（ア）屋台 [元気よく・力強く・速すぎず]

俗に「バカッパヤシ」と言われ、御輿が村内を巡行する時、乗り物（屋台）に乗り、神霊を送り迎えする時の調べ。

（イ）宮昇殿 [ゆったりと、基本打ち]

御輿が社に近づいて来たことを知らせる調べ。また、神霊の巡行疲れを慰める調べ。

（ウ）昇殿・字昇殿 [宮昇殿より、やや速く]

御輿がいよいよ宮に入ることを知らせる調べ。また、御輿が無事に宮入りすることを願うとともに、宮入をうながす調べ。

（エ）神田丸 [ツケと呼ばれる締太鼓がおりなす、軽快なリズム]

主に小太鼓の調べで、神霊が宮入りして、神官があいさつをする時の調べ。また、神霊の宮入りに際し、地神がお迎えをする調べ。

（オ）唐楽・鎌倉 [ゆるやかに] ——神官・恵比寿

安泰を祝い、神官が余興として行う調べ。また、神霊を鎮める調べ。

（カ）仕丁舞 [浮かれながら、転がすように。笛のリードでテンポが速く軽快に]

——天狗・きつね

以上の行事がおわり、神官が浮かれながら帰る時の調べ。また、御輿の担ぎ手であった仕丁達が神霊を無事に、社へお移したあとの、喜びと開放感を表した調べ。

(キ) 巨口土場 [はっきりと、軽快に] — おかめ・ひょつとこ
一切がおわり、おかめ・ひょつとこが、鉢洗いをする調べ。また、まつりの全てが無事終えて、氏子達を慰労する調べ。

(ク) 亥口 [軽快に。太鼓・おはやしのウオーミングアップ、肩慣らし]
「屋台」の一部で、「屋台」に入る前の前奏曲。

(ケ) ぶっこみ [威勢よく、はっきりと] — 小太鼓一柄のみ
刻(きざみ)なしで、ぶつつけ本番で「屋台」を演奏する時、最初に演奏する調べ。

＊＊以上の「まつりばやし」について、土屋に伝わる一例を「かんたんな譜面」で表してみました。各地区によって、調べは一様ではありませんが、基本的な「打ち方」は、変わらないと思います。

現在土屋では、「ぶっこみ」・「屋台」・「宮昇殿」・「刻」が主に演奏されています。



土屋の「まつりばやし」

1. 演奏曲譜例 「ぶっこみ」
「屋台」 (ばかっぱやし)
2. 演奏曲譜例 「宮昇殿」
「昇殿」 (字昇殿)
3. 演奏曲譜例 「刻」
4. 演奏曲譜例 「神田丸」
5. 演奏曲譜例 「唐楽」 「鎌倉」
「仕丁舞」
6. 演奏曲譜例 「印場」

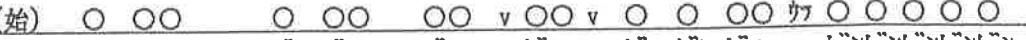


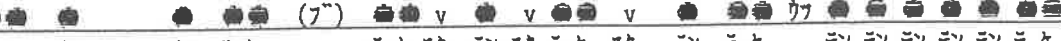
1 ぶっこみ (小太鼓のみ)

小 
 テケ テン ウツ テン テン テン テン テケ ウツ テン テン テン テケ ウツ

小 
 テン テン テケ テン テケ テン テン テケ テン テケ "ソーレ" (屋台のブヘ)

屋台 (ばかっぱやし)

大 (始) 
 トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

小 
 テケ テン テン テケ テケ スカ テン スカ テケ スカ テン テケ テン テン テン テン テン テケ (かるく)

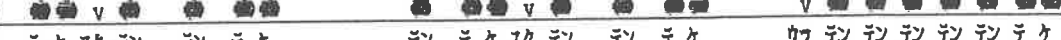
大 
 トン スカ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

小 
 テン テケ スカ テン テン テケ テン テケ スカ テン テケ

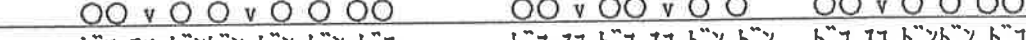
大 
 トン スカ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

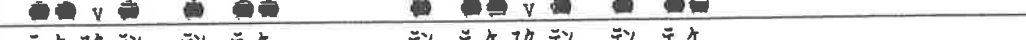
小 
 テン テケ スカ テン テン テケ テン テケ スカ テン テケ

大 
 トン スカ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

小 
 テン テケ スカ テン テン テケ テン テケ スカ テン テン テケ ウツ テン テン テン テン テン テケ

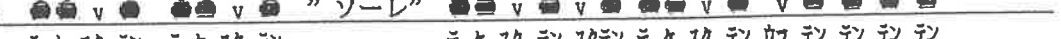
数回で大胴切る

大 
 トン スカ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

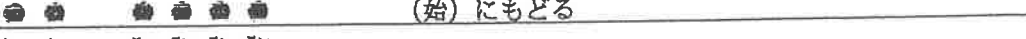
小 
 テン テケ スカ テン テン テケ テン テケ スカ テン テン テケ

[]屋台終了の時

大 
 トン スカ トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

小 
 テン テケ スカ テン テケ スカ テン テケ スカ テン テケ スカ テン ウツ テン テン テン テン

大 
 トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン トン

小 
 テケ テン テン テン テン (始) にもどる

宮昇殿

大 (前奏) ○ ○ ~ ○ ○ ○ ○
トッ ト〜 ショ トン トン トン

小 ● ●
テン テン

大 ○○ トコ ○○ トコ ○ ○ ○ トン トン トコ ○ ○ トン トン ○ ○ トントン v ○ ○ トントン

小 (始) ● ● ● v ● ● ●
テン テン テン テン テン テン

大 ○○ トユ ○ ○ v ○ ○ トン トン カッ トントン ○ ○ トユ ○ ○ トン トン ○ ○ v ○ ○ トントン カットントン

小 ● ● v ● ● ● ●

テン テン テン テン テン テン

大 ○○ ○○○ ○～○ ○ ○ ○ ○
トコ トヲト トーショ トン トン トントン トントンウツトントン トーショ トントントン
小 ● v ●● ●● ●●
テン テン テン テン (始)へ

昇殿 (字昇殿)

(前奏)

大 ○ ○ ○ ~○ ○○ ○○ ○ ~○ ○ ○○○

トントン トーント トユ トユ トーント トン トン トユ

小 ●●●●●● ● ● ●●●●●●

テン テン ステ テン テン テ テ ステ テン テン

大 ○ ○ トントン トントン トユ トト〜トユ

小 (始) ● ● ステ テン ステ テン テ

大 ○ トン ○ ○ トントン ○ ○ トユ ○ ○ ~ ○ ○ トト〜ントユ

小 ● ● テン ● ● ステ ● ● テン ● ● ステ ● テン ● テ

大 ○～○ ○ ○ ○ ○～○ ○○ ○ ○ ○～○ ○ ○ ○ ○ ○

トーン トン トン トン トン トーン トー トン トン トン トン トーン トン トン トン トン トン

小 ● ● ● ● ●●●● (始)へ

テ テン テ テ ステ テン テン

大 〇〇 v 〇 〇 〇〇 v 〇 〇〇 〇〇 v 〇〇
 (かるく、10回) トユ ス トントン トユ ス トントユ (つよく1回) トユ ス トントン

小 ●● v ● ●● ●● v ● ●● ●● v ● ●●
 テ ス テン テ テ ス テン テ テ ス テン テ

大 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇
 トントン トントン トントン トントン トントン トントン トントン

小 ●
 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

大 〇〇 〇 〇〇 〇 v 〇 〇 〇〇 v 〇〇 v 〇〇
 トユ トン トユ トン ス トントン トユ ス トユ ス トユ

小 ●● v ●● v ●● v ●
 テ ス テ ス テン テ ス テン

大 〇〇 〇 〇〇 〇 v 〇 〇 〇〇 v 〇〇 v 〇〇
 トユ トン トユ トン ス トントン トユ ス トユ ス トユ

小 ●● v ● v ●● v ●
 テ ス テン ス テン テ ス テン

大 〇〇 〇 〇〇 〇 v 〇 〇
 トユ トン トユ トン ス トントン

小 (屋台の始へ)



大

トン トン

小

テン テン テク テン テン テン ヲ テク テン ヲ テン テン テン テン

大

小

テン テン テン テケ テン テン テン テン テケ テン テン テケ テン テン テン テン テケ

大

小

テン テン テケ テン テン テケ テン テン テケ テケ テケ テン

トコ トコ トコ
v v v

大

小

テン テン テク テン テン v テン テン v テク テン テン テン テン

大 ○○○ ト"ト"ト" ○○○ ト"ト"ト" ○○○ ト"ト"ト" ○○ ト"ユ ○○ ト"ユ

小 ●●● テテテ ●●● テテテ ●●● テテテ ●● テク ● テフ ● テ ● テ ● テフ ● テ

大 ○○ トー ○○ トー ○○○ トー”ト” ○○○ トー”ト” ○○○ トー”ト” ○○○ トー”ト”

小 ●● テ ● テ ●● テ ●● テ ●● テ ● テ ●● テ ●●● テ ●●● テ ●●● テ ●●● テ ●●● テ

大 ○○ トユ ○○ トユ ○○ トユ ○○ トユ ○○○ トトト

小 ●● テク ●● テク ●● テク ●● テン ●● テン ●● テク ●● テテ テ v ●● テン ●● テテ テ v ●● テン ●● テテ テ

大 〇〇 〇〇 〇〇〇 〇〇 〇〇
トコ トコ トトト トコ トコ
小 ㊦㊦ ㊦㊦ ㊦ ㊦ v ㊦㊦㊦ ㊦㊦㊦ ㊦㊦ ㊦㊦
テケ テケ テン テン テ テ テ テン テケ テケ

小  (強く・ゆっくり)
た ち ち た ち ち た ち ち た ち ち た ち ち

5 唐 楽

大 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

小 {笛} トッ トン トッ トン トッ トッ トン トッ トッ トン トッ

 テ ス テ テ テ ス テ テ テ

(ゆっくり)

大 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

小 トッ トン トッ トン トッ トン トッ トッ トン トッ トッ トン トッ

 {笛} テ ス テ テ テ ス テ テ テ

大 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

小 (ゆっくり) トッ トン トッ トン トッ トン トッ トン トッ

 テ テ テ テ テ

鎌 倉

大 ○ ○ v ○ ○ ○ ○ ○ ○ v ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

小 (始) トッ ス トッ トン トン トン トッ ス トッ トン トッ トン トン トッ (始) へ

 テ テ テ テ テ

仕 丁 舞

大 ○ ○ v ○ ○ v ○ ○ ○ ○

小 (始) トッ ス トッ ス トッ トン トッ (始) へ

 テ ス テ ス テ テ テ

大 〇〇 v 〇〇 v 〇 〇
 トコ スコ トコ スコ トン トン
 小 (始1) 〇〇 〇 v 〇 〇〇 v 〇
 テン テン スコ テン テン スコ テン

大 〇〇 v 〇 v 〇 〇
 トコ スコ トン スコ トン トン
 小 〇〇 〇 v 〇 〇〇 v 〇
 テン テン スコ テン テン スコ テン

大 〇〇 v 〇〇 v 〇 〇 〇
 トコ スコ トコ スコ トン トン トコ
 小 〇〇 〇 v 〇 〇〇 v 〇 (始2) へ
 テン テン スコ テン テン スコ テン

大 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇 〇 〇 〇〇 v 〇 〇 〇 〇
 トコ スコ トン トコ スコ トン トコ スコ トン トン トン トン トコ スコ トン トン トン トン
 小 (始2) 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 v 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

大 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇〇 v 〇 〇 〇 〇
 トコ スコ トン トコ スコ トン トコ スコ トン トコ スコ トン トコ スコ トン トン トン トン
 小 〇
 テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン テン

大 〇〇 v 〇 〇 〇 〇 〇〇 v 〇 〇 〇 〇
 トコ スコ トン トン トン トン トコ スコ トン トン トン
 小 〇 〇 〇 〇 〇 〇 v 〇 〇 〇 〇 〇 〇 (始2) 2回のあと (始1) へ
 テン テン テン テン テン テン テン テン

